

日本におけるフレデリック・ダグラス研究概観

An Overview of Frederick Douglass Studies in Japan

朴 珣 英

PARK Soonyoung

はじめに

アメリカ南部メリーランド州で奴隷として生まれたフレデリック・ダグラス (Frederick Douglass: 1818-1895) は、その生涯を奴隷制廃止運動、黒人の権利獲得運動に捧げた19世紀アメリカを代表する偉大な黒人指導者である。作家、演説家、新聞発行・編集者、社会改革者、政治家として知られ、3冊の自伝のほか、1篇の中編小説、新聞の記事や社説、演説の原稿や記録記事、書簡や日記などが膨大な資料として残されており、アメリカ合衆国においては主に文学、歴史学、政治学の分野において研究されている。

本稿は書誌学的な観点から、日本において出版、刊行されたフレデリック・ダグラスに関する研究¹⁾ — 図書 (単行本)、図書に収載された論文、学術誌・紀要の論文、書評、翻訳等 — を1950年代から2016年3月まで10年ごとに時代区分を設け、刊行年順および著者の50音順に記したものである。²⁾

日本におけるアメリカの黒人奴隷制度や人種差別への眼差しは幕末に遡るとされる。奴隷制や人種差別をまとめた形で報じた先駆けは、1896年の『國民新聞』紙上のハリエット・ビーチャー・ストウ (Harriet Beecher Stowe: 1811-1896) 作 *Uncle Tom's Cabin* (1852) についての紹介であったという。³⁾ その1896年という年は、黒人奴隷制度が廃止された後も公民権運動の時代まで続く、主に南部を中心とした人種隔離政策が「分離すれども平等」(“separate but equal”) として最高裁判所によって「合法」と認められた年である。そのような年に日本において、おそらく初めてと思われるアメリカ黒人 (アフリカ系アメリカ人) に関連する小説が紹介されたことは特筆に値する。また、20世紀初頭には、日本において本格的なアメリカ黒人研究が開始されている。その理由の一つとして挙げられるのが、19世紀からの「黄禍論」(“yellow peril”) を背景としたアメリカの日系移民、日系人への差別である。その根源が先述した最高裁判決に象徴される南部における人種隔離制度であることを、日本の研究者やジャーナリストが見出し、日本におけるアメリカ黒人研究が始まったのである。⁴⁾ 第二次世界大戦前および戦中も文学作品の紹介や翻訳、歴史的著作が刊行されたが、本稿の対象であるフレデリック・ダグラスに関するものは現時点では確認できない。これはアメリカ本国におけるダグラス研究の動向とも多

分に関連するものである。

ダグラスの数多くの著作のうち最も有名なものが*Narrative of the Life of Frederick Douglass, an American Slave, Written by Himself* (1845) であり、アメリカ文学における特殊なジャンル、奴隷体験記 (slave narratives) の名作として知られている。奴隷体験記は、主にアメリカ北部で奴隷制廃止運動が活発化した1800年代初めから、運動が最盛期を迎える1830年代から40年代そして南北戦争前期にかけて増加していった。奴隷体験記とは、奴隷制度から逃れた元奴隷によって書かれたもの、あるいは元奴隷による語りを口述筆記したもので、奴隷の惨状とともにそのような苦境にあっても人間性を失わず尊厳をもって生きようとする黒人たちの心情を文学的に表現したものである。それと同時に、奴隷制廃止の世論喚起、特に北部の白人への訴えが大きな役割の一つでもあった。ダグラスの*Narrative*は、口述筆記されたものでも、他の誰かによって代筆されたものでもなく、そのタイトルにあるように「彼自身の手によって書かれた」ものである。奴隷制の下で、黒人奴隷の読み書きが禁止されていた中、読み書き能力を身につけたダグラスの*Narrative*はひとときわ精彩を放ち、ベストセラーとなった。*Narrative*は、同時代のイギリスやアイルランドでも刊行されており、合衆国外でのアメリカ奴隷制反対運動を後押しする役割も果たした。また、フランスやドイツ、オランダにおいても翻訳出版されている。*Narrative*以降もダグラスは、社会的変化やそれぞれの時代的要請に応じて、新たな自伝を2度刊行している。それが*My Bondage and My Freedom* (1855), *Life and Times of Frederick Douglass* (1881, 増補改訂版1892) であり、一人の人物がそれぞれ異なる自伝を3冊も出版することは非常に特殊なことであり、この点もまた20世紀以降の研究者たちの関心を引くところでもある。

しかしながら、1865年の憲法修正第13条による奴隷制度の完全廃止後、最初の2作の自伝は、社会的・政治的使命を終えたとみなされるようになる。1895年のダグラスの死後、これら自伝を含めたダグラスの著作の文学的・歴史的価値が正当に論じられ、評価されるのは1950年代から60年代の公民権運動期まで待たねばならなかった。以後*Narrative*を含めダグラスの著作はアメリカ黒人文学という枠を超え、アメリカ文学の古典⁵⁾として版を重ねるとともに、歴史学、政治学の分野においても広く研究されるようになる。したがって、アメリカにおいてダグラス研究が文学、歴史学、政治学の各分野で浸透するのは、一部の先駆的な研究⁶⁾を除いては、公民権運動期からが一般的である。実際、アメリカにおいてフィリップ・S・フォナー (Philip S. Foner) 編集によるダグラスの生涯や著作に関する資料集全5巻、*The Life and Writings of Frederick Douglass, 1817-1860* (New York: International Publishers)⁷⁾の最初の1巻が刊行されたのは、1950年のことである。そして日本における本格的なフレデリック・ダグラス研究の始まりは、このフォナーによるダグラスの著作集に関する論考から始まるのである。⁸⁾

<フレデリック・ダグラス関連文献>

1950年代

本田創造「フォナー編『フレデリック・ダグラスの生涯と著作集』によせて——アメリカ黒人問題の視覚から」『経済研究』(一橋大学経済研究所)第4巻4号, 1953年, 310-315頁。
菊池謙一『アメリカの黒人奴隷制度と南北戦争』未来社, 1954年, 総469頁。

本田創造「フレデリック・ダグラスと南北戦争」『歴史評論』（歴史科学協議会）67号，1955年，31-58頁。

村本竹司「南北戦争以前におけるアメリカ南部の自由黒人について——奴隷解放運動史研究の
一前提として(1)」『史苑』（立教大学）第18巻1号，1957年，53-78頁。

赤松光雄「奴隷体験記（Slave Narratives）について」『黒人研究』（黒人研究会の会）5号，1958年，3-10頁。

太田芳三郎「黒人問題とその米文学への投影」『英語青年』第104巻1号，1958年，10-12頁。

村本竹司「南北戦争以前におけるアメリカ南部の自由黒人について——奴隷解放運動史研究の
一前提として(2)」『史苑』（立教大学）第18巻2号，1958年，34-73頁。

1960年代

橋本福夫「黒人小説史 2」『黒人文学全集月報 2』早川書房，1961年，5-7頁。

ダグラス，フレデリック（飛田茂雄訳）「私刑について」，橋本福夫，浜本武雄編『ニグロ・エッセイ集』（黒人文学全集第11巻）早川書房，1962年，23-26頁。

ダグラス，フレデリック（黄寅秀訳）「奴隷制度を論ず」，橋本福夫，浜本武雄編『ニグロ・エッセイ集』（黒人文学全集第11巻）早川書房，1962年，9-22頁。

ダグラス，フレデリック（刈田元司訳，岡田章雄解説）「ある黒人奴隷の半生」，中野好夫，吉川幸次郎，桑原武夫編『ある黒人奴隷の半生／思痛記／黒い灯／浦上切支丹／旅の話』（世界ノンフィクション全集第39巻）筑摩書房，1963年，3-114頁。

山本幹雄『南北戦争——その史的条件』法律文化社，1963年，総372頁。

猿谷要「アンティ・ベラム期の黒人群像II」『黒人研究』（黒人研究会の会）24号，1964年，11-16頁。

本田創造『アメリカ黒人の歴史』（岩波新書）岩波書店，1964年，総194頁。

山本幹雄「フレデリック・ダグラスの立場」『立命館文學』228号，1964年，157-190頁。

北村崇郎「ブルースの彼方へ(3)——アメリカのニグロが生み出した文学」『コリア評論』（民族問題研究所）第10巻1号，1968年，26-32頁。

北村崇郎「ブルースの彼方へ(4)——アメリカのニグロが生んだ文学」『コリア評論』（民族問題研究所）第10巻2号，1968年，48-54頁。

猿谷要『アメリカ黒人解放史』サイマル出版会，1968年，総251頁。

北村崇郎『ブルースの彼方へ——黒人文学とその背景』コリア評論社，1969年，総363+vi頁。

1970年代

ダグラス，フレデリック（稲澤秀夫訳）『わが生涯と時代』真砂書房，1970年，総215頁。

猿谷要『アメリカ黒人解放史』サイマル出版会，1968年初版，1971年改訂版，総278+11頁。

貫名美隆「ウォルト・ホイットマンの『前^{フュアグラウンズ}景』——ダグラスとの出会いにも触れて」『黒人研究』（黒人研究会の会）41号，1971年，1-6頁。

古川博巳「奴隷『体験記』考」『人文論集』（神戸商科大学）第8巻2号，1972年，22-61頁。

本田創造『アメリカ社会と黒人——黒人問題の歴史的省察』大月書店，1972年，総251頁。

- 北村崇郎，佐藤宏子，関口功，浜本武雄，藤倉皓一郎（序文 橋本福夫）『黒人文学の周辺 <シンポジウム>』研究社，1973年，総x+304頁。
- 須田稔「Harold Cruse: *The Crisis of the Negro Intellectual* — 反共だが，豊かな知識庫」『黒人研究』（黒人研究の会）45号，1973年，25頁。
- 古川博巳『黒人文学入門』創元社，1973年，総318+vi頁。
- 小池関夫「フレデリック・ダグラスの文学活動」『九州アメリカ文学』15号，1974年，54-74頁。
- 本田創造『南北戦争・再建の時代 ひとつの黒人解放運動史』（創元新書）創元社，1974年，総iv+208+30頁。
- 猿谷要「失われた黒い部分」猿谷要解説，山形正男，古賀邦子，砂田一郎，小山起功訳『黒人論集』研究社，1975年，5-30頁。
- 鈴木三喜男「黒人の小説の源流」大内義一，鈴木三喜男，西尾巖『アメリカ黒人の文学』早稲田大学出版部，1978年，145-170頁。
- 斎藤忠利「語り始めるアメリカ黒人 — 草創期のアメリカ黒人の文学」『一橋論叢』第82巻6号，1979年，601-619頁。
- 須田稔「自由を求めて」池上日出夫，伊藤堅二，須田稔，田中礼『アメリカ黒人の解放と文学』新日本出版社，1979年，1-52頁。

1980年代

- 本田創造「フレデリック・ダグラスの墓（歴史学への旅だち<特集> — 歴史を学ぶ楽しさ）」『歴史評論』（歴史科学協議会）373号，1981年，55-57頁。
- 本田創造「フレデリック・ダグラス研究の一断章 — ダグラスの出生年の確定をめぐる」『一橋論叢』第88巻1号，1982年，1-19頁。
- 池上日出夫「うけつがれる先駆性と伝統 — 現代アメリカ黒人女性作家の作品にみる」『科学と思想』（新日本出版社）48号，1983年，87-97頁。
- 竹本友子「マーティン・R・ディレイニと1850年代の黒人移民運動」『文学研究科紀要 別冊』（早稲田大学大学院）9号，1983年，393-402頁。
- 鈴木三喜男「Frederick Douglassの自伝文学」『教養諸学研究』（早稲田大学政治経済学部教養諸学研究会）76号，1984年，17-31頁。
- 須田稔「自伝にみるアメリカ黒人の母親像」『立命館大学人文科学研究科紀要』37号，1984年，61-88頁。
- 古川博巳「世紀転換期とアメリカ黒人文学 I」『立命館大学人文科学研究所紀要』37号，1984年，31-41頁。
- Saito, Tadatoshi (斎藤忠利) “On Black Experience in Christianity” *Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences* 第26巻1号，1985年，1-13頁。
- 風呂本惇子「仮面の詩人 — ポール・ローレンス・ダンバー，覚え書き」『アメリカ黒人文学とフォークロア』山口書店，1986年，49-73頁。
- 荒このみ「移動性深南部 — マヤ・アンジェロウ」『英語青年』第133巻1号，1987年，15-16

頁。

小池関夫『奴隷体験者による文学——米国1701-1865』オメガ・ポイント, 1987年, 総219頁。

斎藤忠利「アメリカ黒人のキリスト教体験」『英語青年』第133巻5号, 1987年, 18-20頁。

本田創造『私は黒人奴隷だった——フレデリック・ダグラスの物語』(岩波ジュニア新書) 岩波書店, 1987年, 総211頁。

古川博巳「世紀転換期とアメリカ黒人文学II」『立命館大学人文科学研究所紀要』44号, 1988年, 1-31頁。

中島和子「キリスト教転化の論理」『黒人の政治参加と第三世紀アメリカの出発』中央大学出版部, 1989年, 63-127頁。

1990年代

岸昭夫「アメリカ文学ノート——その黒人文学のルーツについて」*Biblia* (山形Bibliaの会) 14号, 1990年, 62-63頁。

斎藤忠利「Sojourner Truthについて」『日本女子大学紀要 文学部』40号, 1991年, 1-9頁。

本田創造『アメリカ黒人の歴史 新版』(岩波新書) 岩波書店, 1991年, 総252+8頁。

小池関夫「輝く北の星 フレデリック・ダグラス」『死と復活——米国奴隷文学1701-1865』聖母の騎士社, 1993年, 120-136頁。

滝野哲郎「自伝の中のフレデリック・ダグラス——メリーランド時代」『同志社アメリカ研究』29号, 1993年, 15-23頁。

ダグラス, フレデリック (岡田誠一訳)『数奇なる奴隷の半生——フレデリック・ダグラス自伝』(りぶらりあ選書) 法政大学出版局, 1993年, 総195頁。

Cammarata, Diane (カマラータ, ダイアン) “The Identity of the Author As Evidenced in the Narrative of Frederick Douglass, an American Slave, Written by Himself”『小樽商科大学人文研究』87号, 1994年, 167-186頁。

須田稔「自伝にみるアメリカ黒人母親像」『アフリカ系アメリカ人の思想と文学』大阪教育図書, 1994年, 259-286頁。

Takao, Naochika (高尾直知) “The Writing Scene of Frederick Douglass’s Narrative”『英學論考』(東京学芸大学) 25号, 1994年, 10-22頁。

Takino, Tetsuro (滝野哲郎) “The Black Hero and His White Audience: Frederick Douglass’s ‘The Heroic Slave’”『女子大文学 外国文學篇』(大阪女子大学) 46号, 1994年, 52-67頁。

富士川義之「内側から奴隷制度を告発する『数奇なる奴隷の半生 フレデリック・ダグラス自伝』」『週刊ポスト』(小学館) 1994年2月4日号, 1994年, 128頁。

赤松光雄「戯曲に見るフレデリック・ダグラス」『黒人研究』(黒人研究会の会) 65号, 1995年, 29-30頁。

伊藤堅二「フレデリック・ダグラスの『英雄的奴隷』について——アメリカ黒人の最初の中編小説」『鳩 成安造形大学研究紀要』2号, 1995年, 158-169頁。

竹中興慈「フレデリック・ダグラスと奴隷の宗教」『黒人研究』(黒人研究会の会) 65号, 1995年, 27-28頁。

宮井勢都子「フレデリック・ダグラスと女性の権利獲得運動」『黒人研究』(黒人研究の会) 65号, 1995年, 25-26頁。

滝野哲郎「1855年のフレデリック・ダグラス — *My Bondage and My Freedom* について」『女子大文学 外国文学篇』(大阪女子大学) 48号, 1996年, 91-108頁。

荒このみ『黒人のアメリカ — 誕生の物語』(ちくま新書) 筑摩書房, 1997年, 総237頁。

岩本裕子「ダグラス, フレデリック」猿谷要編『アメリカ史重要人物101』1997年, 新書館, 62-63頁。

滝野哲郎「南北戦争後のフレデリック・ダグラス — *Life and Times* を中心に」『同志社アメリカ研究』33号, 1997年, 19-27頁。

辻内鏡人『アメリカの奴隷制と自由主義』東京大学出版会, 1997年, 総xi+323+25頁。

池上日出夫「アメリカ文学の展開と民主主義」『独立宣言・奴隷解放宣言とアメリカ』青磁書房, 1998年, 3-30頁。

小林憲二「解説」ハリエット・ビーチャー・ストウ (小林憲二訳)『アンクル・トムの小屋 新訳』明石書店, 1998年, 540-594頁。

常山菜穂子「アメリカン・オセロ — フレデリック・ダグラスと黒人大衆演劇の伝統」『英文學研究』(日本英文学会) 第75巻2号, 1998年, 237-251頁。

奥田暁代「歴史の再構築と再記憶 奴隷体験記に見る黒人男性ナラティブと黒人女性ナラティブの相違」木下卓, 笹田直人, 外岡尚美編著『多文化主義で読む英米文学 新しいイズムによる文学の理解』ミネルヴァ書房, 1999年, 30-45頁。

Kaneko, Fumihiko (金子史彦) “Their Motives for Struggling for Freedom: The Comparison between *The Narrative of the Life of Frederick Douglass an American Slave Written by Himself* and *Incidents in the Life of a Slave Girl*” 『比較文化研究』(日本比較文化学会) 42号, 1999年, 38-48頁。

滝野哲郎「クリオール号事件とフレデリック・ダグラスの小説」南井正廣編『フィクションの諸相 — 松山信直先生古希記念論文集』英宝社, 1999年, 61-77頁。

2000年代

小谷一明「フレデリック・ダグラスにおける抵抗の可能性」『人文科学論集 文化コミュニケーション学科編』(信州大学) 34号, 2000年, 137-146頁。

猿谷要『歴史物語アフリカ系アメリカ人』(朝日選書) 朝日新聞社, 2000年, 総361+xvii頁。

Suzuki, Taisuke (鈴木大輔) “Frederick Douglass and Du Bois Viewed from the Development of the American Mind” 『朝日大学一般教育紀要』26号, 2000年, 95-107頁。

高階悟「アメリカの歴史と黒人の闘い フレデリック・ダグラスの『奴隷体験記』」原川恭一, 並木信明編著『文学的アメリカの闘い 多文化主義のポリティクス』(松柏社), 2000年, 63-81頁。

TsuneYama, Nahoko (常山菜穂子) “The Globe upon a Hill: Reception and Transfiguration of Shakespeare in the Early American Theater” 慶應義塾大学, 博士論文, 2000年, 総234頁。

古川博巳「フレデリック・ダグラス」加藤恒彦, 北島義信, 山本伸編著『世界の黒人文学 ア

- フリカ・カリブ・アメリカ』鷹書房弓プレス, 2000年, 128-131頁。
- 風呂本惇子「フレデリック・ダグラスほか『奴隷体験記』の系譜」『世界の文学』(週刊朝日百科) 34号, 2000年, 108-111頁。
- 岩本裕子「ダグラス, フレデリック」猿谷要編『新装版 アメリカ史重要人物101』新書館, 2001年, 62-63頁。
- 小林憲二「ハリエット・ジェイコブズ復権——序にかえて」ハリエット・ジェイコブズ(小林憲二編訳)『ハリエット・ジェイコブズ自伝 女・奴隷制・アメリカ』明石書店, 2001年, 15-76頁。
- 西本あづさ「奴隷体験記における個人の物語と集団の歴史——ハリエット・A・ジェイコブズの『ある奴隷女の人生の出来事』」『アメリカ研究』(アメリカ学会) 35号, 2001年, 97-114頁。
- Watanabe, Yoko (渡辺洋子) “The Power Relationship between Planters and Slaves in the Slave Quarters as Seen Through the Narrative of Frederick Douglass”『紀要』(純真女子短期大学) 38号, 2001年, 39-49頁。
- 巽孝之『リンカーンの世紀 アメリカ大統領たちの文学思想史』青土社, 2002年, 総293+15頁。
- 塚田幸光「Hearing/Stealing Myriad Voices——Mark Twain 初期作品における市場と文学的想像力」『英米文学』(立教大学) 62号, 2002年, 91-114頁。
- 佐藤晴雄「メアリランドへ行こう」『中央英米文学』(中央大学大学院英米文学研究会) 36, 37合併号, 2003年, 44-80頁。
- 朴珣英「小説を通しての対話——DouglassとStoweの小説に共通する黒人ヒーロー像と奴隷制廃止運動の方向性」『アメリカ文化研究の可能性』(大阪大学大学院言語文化研究科) 2003年, 11-20頁。
- 斎藤兆史 上岡伸雄「彼が最も恐れていることを, 私は最も望んでいた。——フレデリック・ダグラス『フレデリック・ダグラスの生涯の物語』」解説(17-18頁), ダグラス自伝引用と対訳(19-21頁)『英語達人読本 音読で味わう最高の英文』中央公論新社, 2004年(CD1枚付)。
- 佐藤晴雄「もう一つの独立宣言」『中央英米文学』(中央大学大学院英米文学研究会) 38号, 2004年, 60-71頁。
- 佐藤晴雄「ワイハウス再訪」『世界文学』(世界文学会) 100号, 2004年, 89-97頁。
- 清水忠重「フレデリック・ダグラス」『神戸女学院大学論集』第50巻3号, 2004年, 43-58頁。
- 清水忠重「1850年代のF・ダグラス」『神戸女学院大学論集』第51巻2号, 2004年, 149-164頁。
- 滝野哲郎『農園主と奴隷のアメリカ』世界思想社, 2004年, 総259+19頁。
- 朴珣英「奴隷制廃止運動におけるフレデリック・ダグラスのレトリカルストラテジー」黒人研究会編『黒人研究の世界』青磁書房, 2004年, 3-11頁。
- 山口善成「黒人奴隷の証言と信頼性——フレデリック・ダグラスの場合」『高知女子大学紀要 文化学部編』53号, 2004年, 1-13頁。
- 荒このみ「スレイヴ・パワーからブラック・パワーへ——フレデリック・ダグラス『奴隷についての七月四日とは何か?』」解説(69-72頁), ダグラス演説翻訳(73-81頁) 亀井俊介, 鈴

- 木健次監修 荒このみ編『資料で読むアメリカ文化史 2 独立戦争から南北戦争まで 1770年代-1850年代』東京大学出版会, 2005年。
- 朴珣英「フレデリック・ダグラスの“masculinity”戦略 — *Narrative*を中心に」『黒人研究』（黒人研究の会）74号, 2005年, 70-74頁。
- 朴珣英「尊厳を懸けた戦い — Frederick Douglassの“Fight with Covey”をめぐる」『アメリカ文化研究の可能性III』（大阪大学大学院言語文化研究科）2005年, 11-18頁。
- 上岡伸雄「フレデリック・ダグラス『アメリカの奴隷にとって, 独立記念日とはどんな日なのか?』（1852）」ダグラス演説引用と対訳（36-39頁）, 解説（40-43頁）上岡伸雄編著『名演説で学ぶアメリカの歴史』2006年（CD2枚付）。
- 佐藤晴雄『メアリランドへ行こう — フレデリック・ダグラスとその時代』武蔵野大学出版会, 2006年, 総233頁。
- 朴珣英「フレデリック・ダグラスのマスキュリティ言説 — アンテベラム期から南北戦争期を中心に」『アメリカ文化研究の可能性IV』（大阪大学大学院言語文化研究科）2006年, 11-20頁。
- 高階悟「文字・言語そして外国語教育」『秋田県立大学総合科学研究彙報』8号, 2007年, 33-45頁。
- 高野フミ編『「アンクル・トムの小屋」を読む 反奴隷制小説の多様性と文化的衝撃』彩流社, 2007年, 総291+23頁。
- 西本あづさ「ダグラス, フレデリック Frederick Douglass (1818-95)」木下卓, 窪田憲子, 高田賢一, 野田研一, 久守和子編著『英語文学事典』ミネルヴァ書房, 2007年, 331頁。
- 野口啓子『「アンクル・トムの小屋」の色分けされた黒人たち』『津田塾大学紀要』39号, 2007年, 1-17頁。
- Park Soon Young (朴珣英) “Frederick Douglass and His Strategic Application of Masculinity to African American Liberation” 大阪大学, 博士論文, 2007年, 総162+vi頁。
- 福岡和子「復讐する他者『ベニト・セレノ』」「『他者』で読むアメリカン・ルネサンス メルヴィル・ホーソーン・ポウ・ストウ」世界思想社, 2007年, 43-57頁。
- 三石庸子「フレデリック・ダグラス 既成価値観を逆転させる黒人の視点」アメリカ文学の古典を読む会編『語り明かすアメリカ古典文学12』南雲堂, 2007年, 48-54頁。
- 山口善成「ダグラスの『根っこ』」アメリカ文学の古典を読む会編『語り明かすアメリカ古典文学12』南雲堂, 2007年, 55-61頁。
- 池上日出夫「フレデリック・ダグラスの証言」『アメリカ不服従の伝統「明白な天命」と反戦』新日本出版社, 2008年, 39-45頁。
- ダグラス, フレデリック（荒このみ訳）「奴隷にとって七月四日とは何か?」荒このみ編訳『アメリカの黒人演説集 キング・マルコムX・モリスン他』（岩波文庫）岩波書店, 2008年, 49-98頁。
- 佐藤晴雄「ANNA MURRAYを求めて」『世界文学』（世界文学会）107号, 2008年, 54-64頁。
- 佐藤晴雄「(続) ANNA MURRAYを求めて」『世界文学』（世界文学会）108号, 2008年, 42-57頁。

朴珣英「フレデリック・ダグラスと奴隷の歌」風呂本惇子、松本昇編『英語文学とフォークロア — 歌、祭り、語り』南雲堂フェニックス、2008年、78-91頁。

佐藤晴雄「(続々) ANNA MURRAY を求めて」『武蔵野大学文学部紀要』10号、2009年、13-25頁。

ダグラス、フレデリック (岡田誠一訳)『数奇なる奴隷の半生 — フレデリック・ダグラス自伝』(りぶらりあ選書)法政大学出版局、1993年、2009年第2刷、総195頁。

宮井勢都子「奴隷制廃止運動における『身体』へのまなざし」『東洋学園大学紀要』17号、2009年、1-15頁。

2010年代

伊藤堅二「フレデリック・ダグラスの『英雄的奴隷』について」『落葉集 — 戦後の経験のなかから』ウインかもがわ、2010年、141-168頁。

遠藤慶一「1850~60年代におけるフレデリック・ダグラスとハイチ移住運動」『西洋史論叢』(早稲田大学西洋史研究会)32号、2010年、101-112頁。

小沢茂『フレデリック・ダグラス自伝 (名作文学で学ぶ英語)』三恵社、2010年、総90頁 (CD 1枚付)。

佐藤晴雄「Frederick Douglass : Heroic Slave (1853) — 私註の試み」『武蔵野英米文学』(武蔵野女子大学英文学会)43号、2010年、27-40頁。

新免貢「ソジャーナー・トゥルースとフレデリック・ダグラスのキリスト教批判」『宮城学院女子大学研究論文集』110号、2010年、1-25頁。

Zetsu, Tomoyuki (舌津智之) “Captain Ahab’s Cabin: Melville’s Southern Connection in *Moby-Dick*” 牧野有通編 *Melville and the Wall of the Modern Age* 南雲堂、2010年、39-55頁。

ダグラス、フレデリック (千住和秋訳)『奴隷の生涯』ブックツリー・パブリッシング、2010年、総268頁。

ダグラス、フレデリック (専修大学文学部歴史学科南北アメリカ史研究会訳)「フレデリック・ダグラス自伝 (1845年) — 序文および書簡」『専修史学』49号、2010年、202-228頁。

Noguchi, Keiko (野口啓子) “Frederick Douglass’s *My Bondage and My Freedom*: Americanization and Novelization of *Narrative of the Life of Frederick Douglass, An American Slave*” *The Tsuda Review* 56号、2010年、1-21頁。

Park, Soon Young (朴珣英) “Transcription of Frederick Douglass’s Unpublished Handwritten Manuscripts about Toussaint L’Ouverture with an Introduction”『西洋文学研究』(大谷大学西洋文学研究会)30号、2010年、1-26頁。

大島由起子「フレデリック・ダグラスにとっての風景の功罪 — 魅惑の風景言説の排除」『エコクリティシズム・レビュー』(エコクリティシズム研究会)4号、2011年、39-44頁。

ダグラス、フレデリック (専修大学文学部歴史学科南北アメリカ史研究会訳)「フレデリック・ダグラス自伝 (1845年) (2) 第1章~第4章」『専修史学』51号、2011年、155-193頁。

Park, Soon Young (朴珣英) “Silence and Eloquence in Frederick Douglass’s ‘The Heroic Slave’ and Herman Melville’s ‘Benito Cereno’: A Preliminary Study”『英文学会会報』(大谷大学英文

- 学会) 37号, 2011年, 1-22頁。
- 朴珣英「人種の壁を越える試み — フレデリック・ダグラスからバラク・オバマへ」里内克巳編著『バラク・オバマの言葉と文学 — 自伝が語る人種とアメリカ』彩流社, 2011年, 87-130頁。
- ダグラス, フレデリック (専修大学文学部歴史学科南北アメリカ史研究会訳)「フレデリック・ダグラス自伝 (1845年) (3) 第5章~第9章」『専修史学』53号, 2012年, 187-230頁。
- 藤江啓子『空間と時間のなかのメルヴィル — ポストコロナルな視座から解明する彼のアメリカと地球 (惑星) のヴィジョン』晃洋書房, 2012年, 総xi+326+5頁。
- 上杉忍『アメリカ黒人の歴史 奴隷貿易からオバマ大統領まで』(中公新書) 中央公論社, 2013年, 総236+iv頁。
- ダグラス, フレデリック (専修大学文学部歴史学科南北アメリカ史研究会訳)「フレデリック・ダグラス自伝 (1845年) (4) 第10章」『専修史学』55号, 2013年, 114-161頁。
- Park, Soon Young (朴珣英) “Frederick Douglass's Strident View on Black Masculinity in His Later Years”『真宗総合研究所研究紀要』(大谷大学真宗総合研究所) 30号, 2013年, 141-155頁。
- 堀智弘「フレデリック・ダグラスとジョサイア・ヘンソン — 19世紀中葉の『反抗的な奴隷』像に関する一考察」『人文社会論叢 人文科学篇』(弘前大学人文学部) 30号, 2013年, 15-27頁。
- 堀智弘「19世紀中葉における『抵抗する奴隷』の表象 — フレデリック・ダグラスとハリエット・ビーチャー・ストウの間テキスト的対話」権田健二, 下河辺美知子編著『アメリカン・ヴァイオレンス — 見える暴力・見えない暴力』彩流社, 2013年, 175-200頁。
- 大森一輝「黒人法律家が夢見た『メルティング・ポット』と『メリトクラシー』」『アフリカ系アメリカ人という困難』彩流社, 2014年, 27-54頁。
- 河内信幸「フレデリック・ダグラス国立史跡 (シーダーヒル・ハウス)」北米エスニシティ研究会編『北米の小さな博物館3』彩流社, 2014年, 80-89頁。
- ダグラス, フレデリック (専修大学文学部歴史学科南北アメリカ史研究会訳)「フレデリック・ダグラス自伝 (1845年) (5) 第11章・追補」『専修史学』57号, 2014年, 89-130頁。
- 辻祥子「フレデリック・ダグラス (Frederick Douglass 1818-1895) トランスアトランティック・ダグラス — 『ヒロイック・スレイヴ』に見られる再生の証」新井英夫, 辻祥子, 細川美苗, 森有礼『越境する英米文学 — 人種・階級・家族』音羽書房鶴見書店, 2014年, 65-80頁。
- 権田健二「憲法の開放・奴隷の解放 — フレデリック・ダグラスの合衆国憲法」『アメリカ研究』(アメリカ学会) 49号, 2015年, 177-195頁。
- Park, Soon Young (朴珣英) “Martin R. Delany and His Vision of Black Liberation in the Antebellum Period”『金城学院論集 人文科学編』第11巻2号, 2015年, 112-122頁。
- 風呂本惇子「解説」ウィリアム・ウェルズ・ブラウン (風呂本惇子訳)『クローテル 大統領の娘』松柏社, 2015年, 279-297頁。
- Okajima, Kei (岡島慶) “Tradition of Ambivalent Estrangement: Democratic Intertextuality in Frederick Douglass's *Narrative* and Ralph Ellison's *Invisible Man*”『目白大学人文学研究』12

号, 2016年, 177-190頁。

ダグラス, フレデリック (樋口映美監修 専修大学文学部歴史学科南北アメリカ史研究会訳) 『アメリカの奴隷制を生きる — フレデリック・ダグラス自伝』彩流社, 2016年, 総185+23頁。

朴珣英「奴隷体験記から自伝へ — フレデリック・ダグラスにおける語りの自由」『黒人研究』(黒人研究の会) 85号, 2016年, 26-34頁。

堀智弘「アメリカの奴隷も崇高を唄う — フレデリック・ダグラスにおけるロマンティズムの美学と自由の倫理」『人文社会論叢 人文科学篇』(弘前大学人文学部) 35号, 2016年, 21-35頁。

松本昇, 高橋勤, 君塚淳一編『ジョン・ブラウンの屍を越えて 南北戦争とその時代』金星堂, 2016年, 総356+ix頁。

おわりに

以上のように, 1950年代から2016年3月までの日本におけるフレデリック・ダグラス研究を概観すると, 60年代から80年代にかけては若干の増加はみられるものの, ほぼ横ばい状態であるのに対し, 80年代から90年代にかけてやや増え, 2000年代以降は増加傾向にあることがわかる。

「はじめに」で述べたように, 日本におけるアメリカ黒人研究は, 第二次世界大戦前から日米関係の諸相の中で生まれてきた。国際連盟での人種差別撤廃提案の否決(1919年), 合衆国での排日移民法(1924年)などが, アメリカの「黒人問題」に目を向けさせ, 同時に文学など文化的側面も紹介され始める。日本で作品が紹介され, 実際に日本を訪れたアメリカ黒人知識人も存在する。文学者で当時, 全米黒人地位向上協会(NAACP)の事務局長を務めていたジェームズ・ウェルドン・ジョンソン(James Weldon Johnson: 1871-1938)は1929年に, 作家で詩人のラングストン・ヒューズ(Langston Hughes: 1902-1967)は1933年に, 20世紀の黒人解放運動に多大な影響を与えたW・E・B・デュボイス(W. E. B. Du Bois: 1868-1963)は1936年にそれぞれ来日している。⁹⁾ また, 来日はしていないが, 実践的な黒人教育を唱えたブッカー・T・ワシントン(Booker T. Washington: 1856-1915)の研究書や自伝の翻訳も第二次大戦以前に刊行されている。

しかしながら, 第二次大戦以前の日本において同時代人ではない, 奴隷制を直接体験したフレデリック・ダグラスの研究に関しては, アメリカでのダグラスの評価あるいは再評価がなされる1950年代となる。1950年, フィリップ・S・フォナーによってダグラスの生涯や著作に関する資料集が刊行され始めた。それを受けて, 一橋大学の本田創造が歴史学的, 経済学的に関連の研究成果を公にする。日本におけるダグラス研究の嚆矢と言えるだろう。その後, 本田は『私は黒人奴隷だった — フレデリック・ダグラスの物語』(岩波ジュニア新書, 1987年)を刊行するなど, ダグラスに関しての啓蒙的な紹介の役割も果たした。

1961年から1963年にかけて刊行された『黒人文学全集』(全13巻, 早川書房)は, アメリカの黒人文学に焦点を当てた画期的なものであった。同全集に, ダグラスの演説が抄訳ではあるが二編収載された。1963年にはダグラスの*Narrative*の翻訳が「ある黒人奴隷の半生」として世

界ノンフィクション全集第39巻『ある黒人奴隷の半生／思痛記／黒い灯／浦上切支丹／旅の話』（筑摩書房）に収載された。その後、ダグラスに関する研究は、公民権運動などから影響を受け、文学や歴史学などの分野で取り組まれている。1970年には*Life and Times*の抄訳ではあるが稲澤秀夫訳『わが生涯と時代』（真砂書房）が刊行された。ダグラス没後100周年の1995年には、黒人研究会（1954年創設、現・黒人研究学会）（Japan Black Studies Association）が「F・ダグラス没後100周年記念フォーラム」を開催した。本田創造を司会に、宮井勢都子、竹中興慈、赤松光雄が報告を行い、活発な討議がなされた。¹⁰⁾

1980年代から現在までは、人種やエスニシティに加えて、ジェンダーやキリスト教との関連を論じるもの、2000年代に入るとハーマン・メルヴィル（Herman Melville: 1819-1891）などいわゆる「キャンオン」との比較論考も出てきた。¹¹⁾ また、1990年代以降は、ダグラスのいくつかの著作が翻訳、出版されている。*Narrative*の訳書『数奇なる奴隷の半生 — フレデリック・ダグラス自伝』（岡田誠一訳、法政大学出版局、1993年、2009年）、ダグラスの有名な演説「奴隷にとって七月四日とは何か？」が荒このみ訳で『アメリカの黒人演説集』（岩波文庫、2008年）に収載されている。樋口映美監修で*Narrative*の訳書『アメリカの奴隷制を生きる — フレデリック・ダグラス自伝』（彩流社、2016年）も刊行された。

しかしながら全体を通してダグラスの著作の翻訳は、主に1冊目の自伝*Narrative*と彼の演説の中で最も有名な“*What to the Slave Is the Fourth of July?*”が多く、文学研究もこれらの著作に関するものが目立つ。2冊目の自伝*Bondage and Freedom*に関する文学研究はわずかであり、3冊目の自伝*Life and Times*に関しては非常に少ないというのが現状である。また、歴史学の分野においても、ダグラスに関する研究は南北戦争期前後までのものがほとんどである。筆者はダグラスを通時的にとらえ、彼が奴隷制廃止運動に身を投じた最初期から晩年に至るまで研究する必要があると考えている。ダグラスを通時的にとらえる上で、特に*Life and Times*に関する文学研究の重要性は、アメリカでも指摘されているものである。2018年はダグラス生誕200周年の年でもある。アメリカを中心に、ダグラス関連の国際会議や学会等でシンポジウムが開催されることが予想される。今後もそうした動向を注視していきたい。

注

- 1) 本稿は、日本国内の研究活動に焦点を当てたものである。学会や研究会などでの口頭発表およびそれらの学術団体が発行するプロシーディングス掲載の発表要旨などは対象としていない。また、ダグラスに部分的に言及している日本国外で刊行された書籍などの日本語訳も、今回は含んでいない。
- 2) 具体的な調査および資料入手に際しては、主に国立国会図書館や以下の文献、インターネットサイトに依拠した。

- ・木内徹編『黒人文学書誌』鷹書房弓プレス、1994年。
- ・大森一輝「日本における黒人史研究、1984-2014年」(大森一輝のホームページ) <http://www.tsuru.ac.jp/~omori/biblio.htm> (2016年11月6日アクセス)
- ・橋本福夫編『黒人文学研究』(黒人文学全集別巻) 早川書房、1969年。
- ・国立国会図書館データベース
- ・「黒人研究書架」『黒人研究』(黒人研究会、現・黒人研究学会)
- ・各大学および研究機関のリポジトリ
- ・CiNiiなどのデータベース

- ・「占領期の雑誌・新聞情報1945-1949」(20世紀メディア情報データベース) 文生書院
 - ・Google Scholarなどの検索エンジン
- なお、資料収集には最善を尽くしたが、遺漏の可能性もあるので、今後も収集に努めていきたい。
- 3) 古川博巳『アフロ・アメリカ文学の研究 ― ルーツとソウルを求めて』京都女子大学, 1989年, 219頁。
 - 4) 加藤恒彦「ASALH参加報告」黒人研究会例会配布資料, キャンパスプラザ京都, 2015年10月24日。
 - 5) 1960年代はアメリカ文学研究全体においても、自伝が文学上のジャンルとして再評価された時代でもある。
 - 6) Cornelius A. Ladner, “A Critical Analysis of Four Anti-Slavery Speeches of Frederick Douglass” (M.A. thesis, State University of Iowa, 1947); Herbert Aptheker, *To Be Free: Studies in American Negro History* (New York: International Publishers, 1948); Benjamin Quarles, *Frederick Douglass* (New York: Associated Publishers, 1948).
 - 7) 1950年当時はダグラスの生年が確定しておらず、自伝の記述からおそらく1817年生まれであろうと推測されていた。しかしながら1970年代後半に新たな歴史資料の発見があり、実際の生年は1818年だということが判明した。(本田創造「フレデリック・ダグラス研究の一断章 ― ダグラスの出生年の確定をめぐる」『一橋論叢』第88巻1号, 1982年, 1-19頁。)
 - 8) 占領期の日本において刊行された雑誌『アメリカ教育』には、加藤憲市訳の「私の奴隷生活と私の自由生活」として *My Bondage and My Freedom* の抄訳がある。同書第10章と11章を部分的に抜粋して翻訳したもので、誤訳が散見される点が残念である。(『アメリカ教育』(アメリカ教育協会) 第3巻6, 7合併号, 1948年, 52-60頁。)
 - 9) 古川博巳『アフロ・アメリカ文学の研究 ― ルーツとソウルを求めて』京都女子大学, 1989年, 223-224頁。
 - 10) 『黒人研究』65号(1995年), 編集後記(北島義信)。
 - 11) 例えばアメリカでは、メルヴィルとの比較においては次のような研究書も刊行されている。Robert S. Levine et al. eds. *Frederick Douglass and Herman Melville: Essays in Relation* (Chapel Hill: UNCP, 2008). このようなアメリカ合衆国での研究動向と連動して、日本においてもダグラスとメルヴィルとの比較研究が出始めている。

本稿は日本学術振興会学術研究助成基金助成金(若手研究B: 2016-2018年度)課題番号16K16795研究課題「フレデリック・ダグラスにおける語りの自由 ― 奴隷体験記から自伝への変容をめぐる」による研究成果の一部である。